

お父さんの審判講習会 資料

令和 6 年 6 月 28 日

松尾BW 西

○審判員の仕事

- ・試合当事者チーム、選手のプレーを毅然とした態度で公正かつ正確にジャッジする
- ・セーフかアウト、フェアかファウル、捕球か落球、ランナーのベース触壘、ハーフスイングなどを担当する審判員が必ず行い、誰も見ていない状況避けることが重要

○基本事項(共通)

構え

- ・プレーを見るときは、ももに軽く手を当て、ひざを少し曲げるが、前かがみにならない
- ・インジケーターは左手に持つ

コール

- ・セーフは早く「セーフ」、アウトは一呼吸おいてから「ヒズ・アウト」とコールする
※学童野球では、野手の落球確率が高いため、じっくり見届けてからアウトのコール
- ・ファウルのコールは両手を広げ「ファウルボール」、フェアはノーボイスでフェア地域の指差しをする
- ・フェア地域のフライ捕球判定は、捕球時は右手を上げグーで「キャッチ」、落球時はセーフの動作で「ノー・キャッチ」とコールする

その他

- ・内野フライの判定は、基本的には球審が行う
- ・球審のストライク・ボールのカウント提示には、帽子のツバをさわり了解した旨答える
- ・インフィールドフライの条件が整った時は、右手のひらを胸に、左手でアウトカウント
- ・インフィールドフライのコールは、基本的に球審が行うが塁審でもコールできる（球審がしない時）
そのコールは、「インフィールドフライ」又は「インフィールドフライ・イフ・フェア」（1. 3塁線上）
- ・カバリングは、反時計回りでの動きが基本（クロックワイズ）
- ・ベースが土で汚れた時は、ハケ等できれいにする
- ・ベースが動いたり浮き上がった時は、「タイム」をかけて元に戻す

○1塁審

立ち位置

- ・1塁にランナーがいない時は、ベースの後方約6～8メートル、線の外側に立つ
- ・1塁にランナーがいる時は、牽制球のタッチに備えベースの後方約3～4メートル、線の外側に立つ

ジャッジ

- ・内野ゴロやライトゴロの1塁判定は、野手の送球と90度の角度を取って（フィールド内に入り）判定する
- ・右バッターのハーフスイングに対する球審のリクエストに答える
（アウト、セーフと同じ動作で「スイング」、「ノースイング」とコールする）
- ・1塁ベース以降の打球のフェア・ファウルは、ラインをまたぎ止まって判定をする（ベースまでは球審）

○2塁審

立ち位置

- ・ランナーなし、ランナー3塁の時は外側。それ以外は内側に位置する
- ・（外側）1・2塁ベースの延長線上で、ベースの後方約6～7メートル（センターの選手に注意）
- ・（内側）2塁ベースから1塁側に約4～5メートルかつ投手寄りに約3歩内側（セカンドの選手に注意）
- ・内側にいる時（外側も）は、選手の邪魔になると思いがまないこと（素早い動きが出来ないため）

ジャッジ

- ・内側に位置した時は、外野へのフライは責任を持たない（打球を追う必要なし）

○3塁審

立ち位置

- ・3塁にランナーがいない時は、ベースの後方約6～8メートル、線の外側に立つ
- ・3塁にランナーがいる時は、牽制球のタッチに備えベースの後方約3～4メートル、線の外側に立つ
- ・2塁からランナーやってきた時は、ベースの約2～4メートルで見やすい場所でジャッジする

ジャッジ

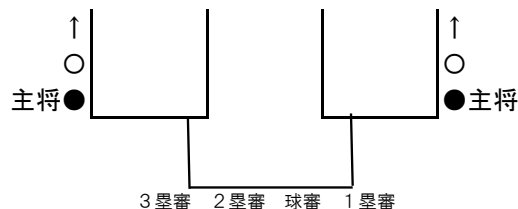
- ・左バッターのハーフスイングに対する球審のリクエストに答える
（アウト、セーフと同じ動作で「スイング」、「ノースイング」とコールする）
- ・3塁ベース以降の打球のフェア・ファウルは、ラインをまたぎ止まって判定をする（ベースまでは球審）

●注意:これらは、西がこれまでに聞いたり教わったりして実践してきた作法ですので、完璧ではありません。

○球審

試合前集合時

- ・「集合」とコールし、駆け足でホームベース後方へ
- ・試合開始集合時の整列順
(3塁側) 3塁審、2塁審、球審、1塁審 (1塁側)
(選手の立ち位置) バッターボックスの外側、後縁
- ・集合後、「○○と◎◎の△△試合を始めます」、会場の特別ルール等を説明する
- ・「キャプテン握手」はR5から無くなり、「それでは始めます。礼。」とコール



試合前

- ・投手に試合球を渡し、投球練習を開始させる
- ・捕手がフル装備の場合は座って捕球させるが、野手が受ける場合は立ったままで捕球させる
- ・初回や投手交代時の投球練習は7球。それ以外は3球。
- ・あと1球となったところで、「ワン・モア・ピッチ」または「もう1球」とコールする

立ち位置

- ・基本は、自分の体の中心が、打者のインコース側ホームベースに構える。
※したがって、アウトコースは、自分の感覚での判定となる。
- ・目線は、その打者のストライクゾーン上限に合わせるため、ヒザを曲げて調整する
- ・捕手の後足かかとの後方1足分に左足(右打者の場合。左打者は反対。)を置き、肩幅より少し広めに足を広げ、自分の左足から1足分後方に右足を置く

ジャッジ

- ・投手に正対し、野手、審判員、打者の準備が出来るまで手のひらを投手に向けて待ての意思表示をし、準備が整ったところで、右手人差し指を投手に指し「プレイ」のコールする
- ・投球に対し、ボールが捕手のミットに収まってから、ストライクは(「ストライク・ワン」、
「ストライク・ツー」、
「ストライク・スリー」)、ボールは(「ボール・ワン」、
「ボール・ツー」、
「ボール・スリー」、
「ボール・フォー」)とコールする
※「ボール・ハイ」や「ボール・ロー」とは言わず、高い低いのゼスチャーもしない
- ・三振の場合、「ストライク・スリー」とだけコールする
※振り逃げの場合があるため「ストライク・バッターアウト」とは言わない
- ・死球の場合、両手を広げ「ヒット・バイ・ピッチ」とコールする
- ・打者のハーフスイングに対し、「ボール」とコールしたとき、捕手からリクエストがあった場合、右打者のときは1塁審に右手を差し出し、左打者のときは3塁審に左手を差し出し、判定を委ねる
- ・反則打球(打者がボックスから足を踏み出し投球をバットに当てたとき)の場合、両手を広げ「反則打球」、「バッターアウト」とコールする(ランナーは元の塁に戻る)
- ・死球、ファウル等ボールデッドとなり、再開する場合は、その都度「プレイ」のコールする
- ・打球に対するジャッジは、基本的にはマスクを左手で外し、フェア・ファール、キャッチ・ノーキャッチ等の判定をする(外す暇がないときはそのももでもOK)
- ・1・3塁線の打球は、ベースまでのフェア・ファール判定をする(ベースに当たればフェアの指差し)
- ・1・3塁線の打球でも、ベースの外野側のフェア・ファール判定は塁審に委ねる(二人で判定をしないこと)
- ・内野手への飛球に対するキャッチ・ノーキャッチの判定をする(外野手は塁審)
- ・内野手への飛球でも、背走するなど見えない位置で捕球された時は、塁審に委ねる
- ・監督からのアピール等により判定を確認するときは、タイムをかけてマウンド付近に塁審を集め協議するとともに、必要があれば本部席にも協議する

●注意:これらは、西がこれまでに聞いたり教わったりして実践してきた作法ですので、完璧きではありません。